

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400410		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターたいら グループホーム ニチイのほほえみ 1Fひばり		
所在地	福島県いわき市小島町2丁目6番地3号		
自己評価作成日	令和元年9月5日	評価結果市町村受理日	令和元年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和元年10月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの心身の状態にしっかり寄り添うことで、尊厳を保ち自立した生活となるよう支援する。
 管理者とスタッフさん、現場のスタッフさん同士でもしっかりと連携をとり、ご入居者様の状態に合わせた支援が出来ているため、ホームの雰囲気がとても温かくグループホームらしいゆったりとした時間が流れています。
 ・ご入居者様、ご家族様、地域の方々との交流を深めながら、安心と温もりのある環境を築いていく。
 定期的に家族様や地域の方、ボランティアさんをお招きしご入居者様との交流を図っています。
 ・グループホームたいらではご入居者様が率先して、食器拭きや食器洗い、洗濯干しから畳み、調理の下ごしらえなど意欲満々に取り組んでくださいます。レクリエーションも充実し、歌やラジオ体操、塗り絵や壁画など入居者様、スタッフさんが協力して作成しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 法人本部の管理栄養士が作成した献立をもとに、各ユニットごとにメニューをアレンジし、利用者の希望や地域の食材を取り入れて調理している。利用者は、調理の下ごしらえから食器洗い等参加し、職員と一緒に会話をしながら楽しんでいる。
 2. 年間研修計画に基づき計画的に実施している。特に虐待委員会による身体拘束・虐待防止についての研修を毎月行い、職員の意識と資質向上を図ることで、利用者が安全安心に生活が出来るよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼・夕礼・業務ミーティングを行う際にはその前にホーム理念を唱和している。地域との繋がりは少しずつだが出来ている。	理念は事業所内に掲示して、毎日朝夕の引継ぎ時や全体会議の中で唱和し共有を図りながら、利用者の能力や経験が発揮出来るよう支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的までとは行かないが、毎年こども神輿に来ていただいたり、施設行事や買い物等を通して地域の方々との交流に努めている。	町内の自治会に加入し地域の一員としての関わりを大切にしている。また、セラピー犬や楽器演奏ボランティア、実習生受け入れや子供神輿の訪問等を通して、地域との交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の区長さんや、婦人会会長さんを通して、ホームでの生活を知っていただき、見学や相談を受け付けていることを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的開催し、ホームの活動状況や現況を報告している。改善課題があるときは頂いた意見を参考より良いサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は定期的開催され、利用者や職員の状況、活動内容やヒヤリハット等を報告し、会議メンバーから意見をもらい、サービス向上に活かしている。また、年1回家族会と合同で会議を開催している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員さんに定期的に来所いただき、利用者様とスタッフさんの状況を伝え、日頃から協力関係を築くことが出来ている。	今回の台風災害に関する情報のやりとり等、必要に応じて対応している。また、介護相談員を月2回受け入れ、さらに、運営推進会議のメンバーにもなってもらい、助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し委員会中心で外部研修の資料や自社マニュアルを活用し、内部研修を実施することで、全スタッフが意識して身体拘束のないケアに取り組んでいる。	虐待防止委員会が中心となって、身体拘束に関する委員会と研修会を定期的開催している。また、スピーチロック等を含め、身体拘束が無い定期的に確認を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠は行っていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し委員会中心で内部研修を行い、全スタッフに虐待防止の認識を共有している。入浴時やトイレ案内、更衣のときに身体チェックし異常があれば管理者に速やかに報告するように徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないが制度の理解と、活用が出来るように学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・改定等において管理者対応で書面の読み合わせによる十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは随時、ご家族様からは面会時や来所時に要望や意見を受け付けている。また、月2回介護相談員さんの来所にて普段私たちに伝えられないような思いを聞いていただき、運営に反映するよう努めている。	利用者や家族からは日々の会話や訪問時、家族会、運営推進会議等で意見や要望を聞いている。また、介護相談員や法人が実施している満足度調査で寄せられた意見や要望等を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者がスタッフさん一人ひとりの意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者は、職員会議やミーティングの中で意見や要望を聞いたり、日頃から職員に声掛けをしながら、意見や要望の把握に努め、業務の改善等に努めている。休暇等職員の希望を聞きながら柔軟に対応し、職員が働きやすい環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内スキルアップ制度を利用し、各自やりがいや向上心を持って働けるように職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自がスキルアップできるように、研修の日程の連絡をし、研修に参加できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの連絡協議会の地区研修の参加や、近隣事業所の運営推進会議に参加し、情報交換しサービスの向上に繋がられるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅訪問や、施設内覧時の面談を通して、不安や悩み、要望を一つ一つ丁寧に受け止めることで安心できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込み時「相談受付表」を活用し、困っていること、不安なこと要望等を把握し関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の顔合わせの際に、本人様・家族様の要望や状況を把握し、必要があれば特定福祉用具販売など、他サービスの説明・調整対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の状況や、性格、今までの暮らし方をきちんと理解したうえで、一人ひとりの状況に合わせた関係を築くことが出来ている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や来所持、電話対応のときに近況を報告し、家族様との絆が安定して保たれるように日頃から意識し努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人や知人等の面会があった際は、居室等でゆったりと過ごして頂けるように配慮している。	家族の協力で自宅訪問や外食、墓参や美容室に出かける等、これまで築いてきた関係が継続出来るよう支援している。家族や知人が訪問された時には、湯茶等を出して居室でゆっくり過ごせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係性や、ADLを把握し場面によって職員がさりげなく間に入りながら、利用者同士が関わりあえるように見守り、段取りしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ問い合わせや相談、情報提供等の援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを受け止め、その人らしく安心して生活できるよう、本人様視点で検討している。	センター方式を活用し、日頃の会話の中から本人の思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から聞き取りながら、本人本位のケアが出来るよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントでセンター方式を活用し、本人様の生活歴やこれまでの馴染みの暮らし方を家族様や、必要な関係機関から情報の収集をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や日常生活支援シート、スタッフさんの意見を活用し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様・家族様・スタッフさんの意見やアイデアを随時収集し、サービス担当者会議で集約することで、現状に即した介護計画の作成が出来る。	入居後1カ月、その後3カ月毎に、利用者や家族の意向と職員の意見等を加え、サービス担当者会議で話し合い、介護計画を作成している。利用者の身体状況に変化が生じた場合は、モニタリングに基づいた介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間の生活リズムを捉えながら、介護記録を残しチームケアに活かすことで介護計画の見直しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様の状況を理解し、専門医の通院など必要に応じて自費ヘルパーの利用もあると情報提供も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティア等の協力を得て、一人ひとりが力を発揮しながら普段の暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様・家族様がかかりつけ医を選定し、納得した上で適切な医療が受けられるように医療機関との連携を図っている。	利用者・家族の希望で医療機関を選び受診している。利用者の多くは、往診と夜間診療可能な協力病院を選んでいる。通院は家族対応としているが都合で通院出来ない時は、事業所職員が支援している。受診等の結果は、受診記録・往診記録を基に報告し相互共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護による健康チェックを行い、適切な受診や医療が受けられるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も病院や家族との情報交換を定期的に行い、早期退院が出来るよう日頃から関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時において重度化した場合や終末期のあり方、看取り等について説明、話し合いをする場を設けている。	契約時に事業所指針を基に、重度化や看取りについて、事業所で出来る事を説明し同意を得ている。重度化した場合は、協力医が行う「重度化・看取りに関する家族との意向調査」を家族と事業所が確認し、方針を共有しながら看取りケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「緊急時対応マニュアル」にて社内研修を実施して対応について周知している。他、AED・心配蘇生法の研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回消防立会いの下、避難訓練・毎月の自主訓練にて利用者の避難方法などを勉強している。	年2回の消防署立会いと地域の協力を得た避難訓練(火災・地震)を実施している。また、非常災害対応マニュアルで災害時の対応(火災・地震・水害)について研修会を実施し、水害を想定し2階への避難誘導訓練を行っている。非常用備蓄品とし水・食料品を準備している。	夜間想定避難訓練も実施し、全職員が避難出来る方法を身につけられるようにしてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、スピーチロックの無い声かけや、やさしく穏やかな声かけと対応をしている。	法人接遇マニュアルで研修会を実施し、利用者の人権の尊重と誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を徹底している。重要書類等は施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクも含め、スタッフさんとの会話の中で本人様が希望や思いを引き出し、日常生活の中で自己実現できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	心身の状況を踏まえて、本人様の希望やペースに合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	イベントの際は女性には口紅を塗ったり、定期的な訪問理容を活用し、散髪、毛染め、髭剃りなどの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	もやしのひげ取り、大根おろしなど出来る事をして頂き、会話をしながら一緒に食事が出来るように支援している。	法人栄養士が作成した献立を基に、会話や喫食状況から把握した利用者の好みを取り入れ、地域の食材を活かしてユニットごとのメニューで調理している。利用者は、食材の買い物や下ごしらえ、片付け、皿洗い等手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量の記録を行うことで、一人一人に合った量が確保できるように支援できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後・個別の状態に合わせ、口腔ケアの声かけ・介助を実施している。月1回提携している歯科医の方に来所頂き、講習を受けることで本人様の力に応じた口腔ケアが出来るよう取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを介護記録を活用し把握することで、排泄の失敗が無いように定期的な声かけで促すことで自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄記録から一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的な声掛けや表情・行動・動作等から羞恥心や自尊心に配慮したトイレ誘導を行っている。日中帯は可能な限り、トイレで自立に向けた排泄が出来るよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況と、腹部の状態や食事、水分の摂取状況を確認することで、運動を促したり食事の工夫に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間帯は午前中と決めている。季節に応じて、ゆず風呂や菖蒲湯にするなど楽しんでいただける工夫をしている。	入浴は週2回、体調や本人の希望に応じローテーションで、午前中に入浴支援を行っている。入浴を好まない利用者には、声掛けのタイミングや時間を変更する等しながら入浴して頂けるよう支援している。また、季節に応じゆず湯・菖蒲湯を取り入れたり、要望により同性介護を行っている。	利用者の気分や希望、習慣に応じた入浴時間も検討してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明や室温、安心して眠れるような声かけを工夫して支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが閲覧できるように個人ファイルはいつでも見れるようにし、変更があればそれぞれの薬情報を共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ること出来ないことを見極め、家事の役割分担をする事で張りのある生活支援をしている。行事やボランティア、セラピードッグの訪問など楽しめる支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、本人様の状況を見ながら希望に沿った支援が出来るように努めている。	晴天の日や桜の季節等は近くの公園や堤防まで散歩に出掛けるようにしている。また、家族と墓参りや外食等に出掛ける機会もある。しかし、外出の機会が少ない。	利用者の楽しみや気分転換、五感刺激の機会として、利用者が日常的・計画的に外出出来るよう工夫・検討して欲しい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお小遣いを預かり金庫で保管している。通常は個人でお金を所持することは無いが、買い物に出かける際は個人で所持し支払いが出来るように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様やご友人に本人様が自ら電話をしたり手紙のやり取りが出来るような体制は常に整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、造花や置物を飾ったり壁画等で季節を感じていただけるように工夫している。	リビングや廊下には季節に応じた共同作品や行事の写真を飾り、季節感を感じて頂けるよう取り組んでいる。また、温度・湿度管理を行い、採光に配慮し、廊下や共用空間に椅子を配置する等、居心地よく生活出来るよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のコーナーに椅子を置き自由にくつろげる空間を作っている。和室で休んでいただいたり、自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人様・家族様と相談しながら馴染みのものを使用してその人らしく生活できるように配慮している。	持ち込みは自由で、利用者と家族の希望する使い慣れた物を持参して頂いている。居室にはテレビや和筆筒、整理タンス、椅子、レンタルベッド等を置き、家族の写真や自作品を飾り、居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や階段、トイレ、浴室などに手すりを設置し常に見守り案内にて混乱を防ぎ、安全で自立した生活が送れるように支援している。		